

1 研究テーマ

庵治の宝物を未来へつなごうとする児童の育成～調べ・考え・発信する子ども～

2 研究内容

庵治町には豊かな自然や特色ある産業があることに加え、それらを支えるために熱い思いをもった地域の人々がいる。しかし、児童はそのすばらしさに気付いておらず、当たり前のこととして受け止めているように感じる。昨年度5月に行ったアンケートでは児童の9割が好きと肯定的に答えているが、具体的な良さはあまり書かれておらず、漠然と庵治が好きと思っている児童が多いと分かった。そこで、実感をもって庵治が大好きになれるように豊かな体験活動を行い、地域に貢献したい、将来地域を盛り上げたいという児童を育てていきたいと考えた。このような児童を育てるためには、体験活動を通して庵治の良さを学び、課題意識をもって主体的に取り組む探究的な学習が最適である。例えば、ハマチの養殖場を見学して庵治の漁業の良さと課題を見付けて調べ、地域のために自分ができることを考え、実践していくといった学習を積み重ねていく。

(1) 6年間を通した豊かな体験活動と育成をめざす資質・能力

1年生では、別の小学校と比較して庵治小学校の良い所を見付け、2年生では小学校から地域へと視点を広げ庵治町の良い所を町探検で見付ける。この2年生での学びが3年生から6年生までの総合的な学習の時間の土台となっている。町探検で見付けた石屋さんを3年生が、近くにある海や島を4年生と6年生が、魚屋さんや漁港を5年生がより深く学んでいく。このような6年間の学習を通して育成をめざす資質・能力を、知識・理解では庵治の良さや現状を理解する「理解する力」、思考力・判断力・表現力等では庵治の良さや課題解決に向けて自分が考えたことを伝える「伝える力」、学びに向かう力、人間性等では庵治や自分の良さを理解し、できることをしようとする「庵治に貢献しようとする力」と考えている。

(2) 自ら欲する体験活動を多く行えるような学習展開

教師から「しらすの水揚げを見に行こう。」と投げかけるのではなく、児童が「この前、漁港の見学に行って、～がおもしろかった。もっと知りたいから、しらすの水揚げが見たい！」と思えるような体験活動にしたい。そのために、今年1年間にどんな学習をしていくのか教師と児童が共有する年間計画を作成したり、児童が「〇〇してみたい。」と自ら進んで行えるような教材との出会わせ方を大事にしたりしたい。



(3) 相手意識・目的意識をもって発信し、その結果を検証して次時の活動に生かす

自分たちが調べた庵治の課題について、解決に向かうように発信してきたことに成果がみられたのかどうかを検証し、その検証から課題を見付け次の活動につなげたい。例えば、地域の人に庵治の魚をもっと食べてもらうために、庵治祭でしらすやエビの販売した後に、「売り上げは〇〇だったな。次はもっと～するのはどうかな。」と結果を検証し、次の活動に活かす。この「次はもっと～したい。」は前述の児童が自ら欲する体験活動にもつながると考える。



3 研究の検証

昨年度は5月と2月、今年度は6月と11月に児童にアンケートを実施した。「庵治は好きですか？」の項目では、大好き、好きと肯定的な回答をした児童が94%→96%→97%→98%と増加している。2回目以降の理由には、「魚が美味しい。オリーブハマチがある。」「きれいな庵治石がとれるから」と具体的に庵治の良さを記述していることから、実感をもって庵治を好きになっていると感じた。今年度は「自分から進んで体験活動に取り組めましたか？」という項目を増やした。進んで活動に取り組めた、を選んだ児童は、6月は42%であったが、11月は58%であった。理由には「庵治の魚をみんなに知ってもらうために、しらすを買って下さいと声かけできた。」「〇〇を伝えるためにスライド作りをがんばって行い、発表することができた。」と発信することを書いている児童が多かった。学んだことを相手に伝える発信を行うことが、主体的な活動につながると感じた。これらのことから、1年間に調べ・考え・発信する探究活動を2、3回繰り返し、誰にどんな発信をするのかという相手意識・目的意識をもてる学習を今後も続けていきたい。